

全佛婦

No.142

2026年新年号

1月1日発行



全佛婦142号

令和8年1月1日 発行日

編集委員 編集人

本多端子 発行人

発行所

公益社団法人 全日本佛教婦人連盟

〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷

4-5-10-205

03-5772-0677 電 話

<http://jbwf.jp> URL

info@jbwf.jp MAIL

本多良之師 表紙画

公益社団法人
全日本佛教婦人連盟

年頭によせて

新年おめでとうございます

昨年は戦後八十年という年に当たり、世界平和を願うイベントや、戦争で亡くなられた方々の慰靈碑への追善法要が世界中で行われました。平和を願う気持ちは、節目だからという事ではなく、常に平和な世界を目指していかなければなりません。未来の子供達の為にも。

昨年の全日仏婦の大会でも述べましたが、今年こそ踏み出そうではありませんか。具体的に私たちのできる事を話し合い、実践していきたいとずっと思つてきました。ぜひ皆様のご協力を願い致します。

大切なではないでしょうか。

今年は「午年」しかも「丙午」です。物事を大きく広げていく強いエネルギーを持つとされているそうです。パワー全開の良い年になります。うな気がしますよね。

パワーの話ですが、当院では毎月満月（新月のときも）護摩供のお勤めをしています。

満月も新月も心の状態にものすごく影響しています。月は地球の周りを一日に一回りしていますが、実は地球の自転より月の公転の方が少し遅いため、月の引力によって地球の自転を止める働きをしています。実際には、地球の自転に変わりありませんが、それは

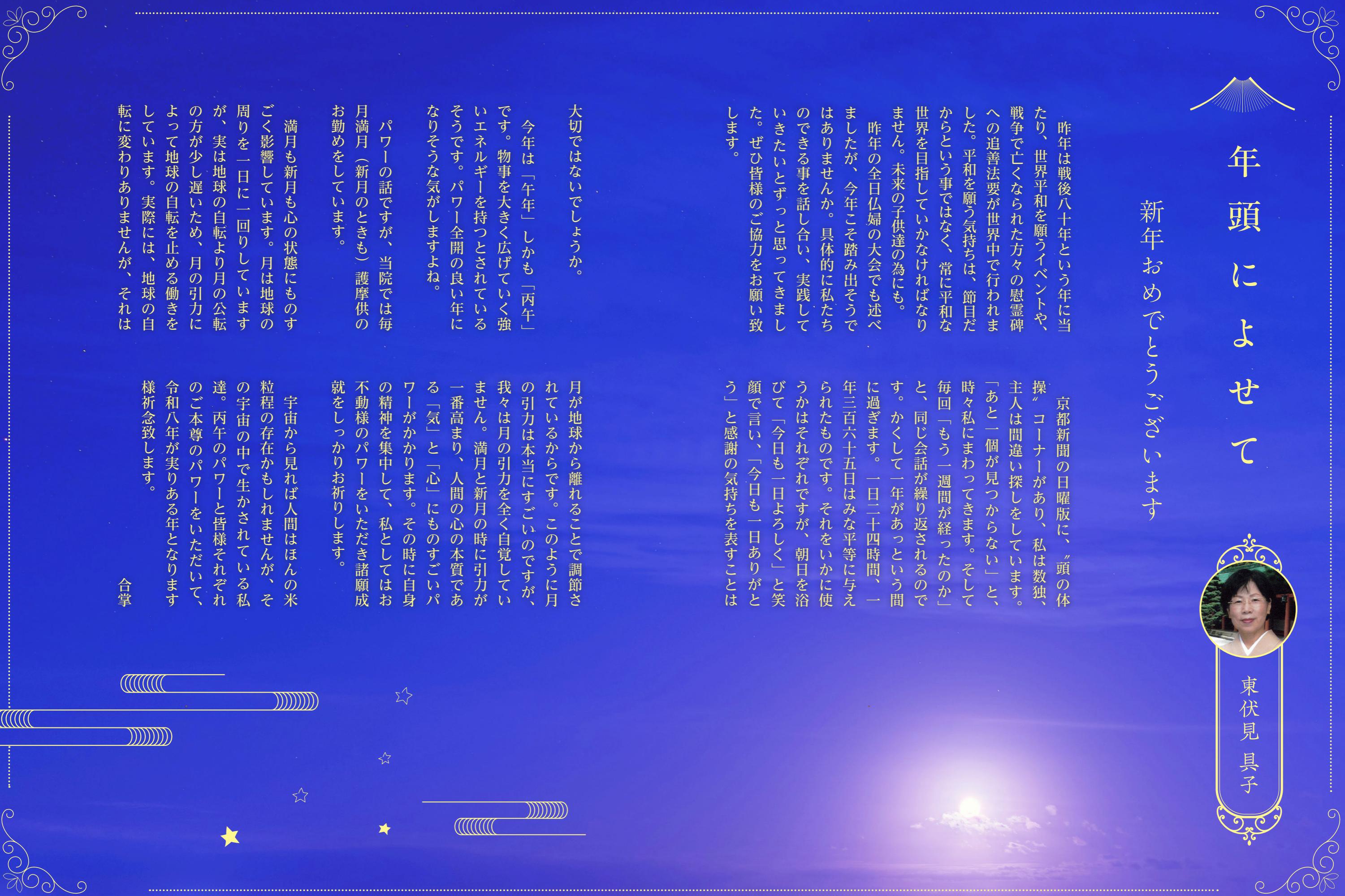
月が地球から離れることで調節されているからです。このように月の引力は本当にすごいのですが、我々は月の引力を全く自覚していません。満月と新月の時に引力が一番高まり、人間の心の本質である「気」と「心」にものすごいパワーがかかります。その時に自身の精神を集中して、私としてはお不動様のパワーをいただき諸願成就をしつかりお祈りします。

合掌



東伏見 具子

京都新聞の日曜版に、「頭の体操」コーナーがあり、私は数独、主人は間違い探しをしています。「あと一個が見つからない」と、時々私にまわってきます。そして毎回「もう一週間が経ったのか」と、同じ会話が繰り返されるのです。かくして一年があつという間に過ぎます。一日二十四時間、一年三百六十五日はみな平等に与えられたものです。それをいかに使つかはそれぞれですが、朝日を浴びて「今日も一日よろしく」と笑顔で言い、「今日も一日ありがとう」と感謝の気持ちを表すことは



門

天地宇宙の真理に氣づく——「仏戒」について

ようやくにして本論に入らせていただきます。

「お授戒」と申しますが、この「じゅかい」には「授戒」と「受戒」と二通りあります。授ける方からいつなら、戒を「さずける」の「授戒」ですし、受ける方からいつなら、戒をお受けする「受戒」となります。

達磨大師は、お釈迦さまから法を相続して二十八代目。インドから中国へ禅をお伝えになりました。

この達磨大師の示された、「一心戒文」の中に、「受とは伝なり受とは傳なり」とあります。

即ち仏心を覺するを眞の受戒となすという言葉があります。「受ける」ということは「伝える」ということ。「伝える」ということは「気づく」ということ。「仏心を覺するを眞の受戒となす」とおっしゃったとおもいます。

あなたたはまわり中が見捨てた、裏切つたと言つて、あなた自身が自分の命を切り、見捨てて、死のうとしているじゃないか。そんなときも、がんばつて見捨てずに、生きてくれば、乗り越えてくれよと、呼びかけ通しに呼びかけ、働きかけ通しに働きかけていてくださる、そのお声が聞こえないか」とおつしやつた。

「そんな声、どこにも聞こえやしない」死のうとしているそのときも、あなたの呼吸が入り出しているでしょう。あなたの心臓が動いているでしょう。死なせてなるものか、乗り越えてくれよ、とあなたの呼吸を出入りさせ、あなたの心臓を動かしてくださる。そのはたらきを仏といふんじや。その他、どこに仏がいると思うか」とおつしやつた。

死のうと思う。けれど、ひとつだけ気になることがある。『南無阿弥陀仏』を唱えて死んだら、救つてもらえるか

という電話だつた。東井先生は、「待つてください。あなたの気まぐれな『南無阿弥陀仏』ぐらいで救われるもんですか。そんなことよりも、あなたたはまわり中が見捨てた、裏切つたと言つて、あなた自身が自分の命を切り、見捨てて、死のうとしているじゃないか。そんなときも、がんばつて見捨てずに、生きてくれば、乗り越えてくれよと、呼びかけ通しに呼びかけ、働きかけ通しに働きかけていてくださる、そのお声が聞こえないか」とおつしやつた。

「そんな声、どこにも聞こえやしない」死のうとしているそのときも、あなたの呼吸が入り出しているでしょう。あなたの心臓が動いているでしょう。死なせてなるものか、乗り越えてくれよ、とあなたの呼吸を出入りさせ、あなたの心臓を動かしてくださる。そのはたらきを仏といふんじや。その他、どこに仏がいると思うか」とおつしやつた。

「勘違ひをしていたようだな」と言つて電話の主が電話を切つた、というお話を思い出します。

わたしも、なんとも思ひなくとも心臓が動いている、呼吸が入り出している。

平成16年、女性では一人目の仏教伝道功労賞を受賞。21年、曹洞宗の僧階「大教師」に尼僧として初めて就任。明光寺（博多）僧堂師家。



愛知専門尼僧堂・特別尼僧堂堂長
青山俊董 老師

おいて 今ここを どこへ行こうと するのか

「仏さまの身心を頂戴していただんだな」ということに気づくことであつて、ないものを頂戴する、「ものをやりとりするとは違うんだぞ」とおつしやる。

「仏心を覺するを眞の受戒となす」。

「仏さまになるのではなくて、仏さまであつたことに気づく、そういうふうに頂戴していただくといいですね。

わたくしが生涯の師として仰いでおりました沢木興道老師の言葉に、「凡夫がぼつぼつ修行して仏になるんじやない。はじめから仏さんなんだ。ただそのことに気づかずに迷つていらっしゃる」。

「仏心を覺するを眞の受戒となす」というのがあります。よく、「仏になら修行」といいますが、そうではない。

はじめから仏さんなんだ。ただ、そのことを気づかず迷つているのを凡夫と呼ぶんだ。沢木老師がそうおつしやつたことを思い出します。

やはりわたくしがお慕い申しあげておりました、教育者で兵庫の八鹿小学校の校長を最後に定年退職された東井義雄という先生のお話を思い出します。

「世の中の人はみんな、わたしを見捨てた。裏切つた。生きてゆく勇気がないなつたから、今から首をつづて

この頃、子どものいろいろな問題があります。大人に責任があると思われるのを凡夫と呼ぶ

「仏心を覺するを眞の受戒となす」というのがあります。よく、「仏になら修行」といいますが、そうではない。

はじめから仏さんなんだ。ただ、そのことを気づかず迷つているのを凡夫と呼ぶんだ。沢木老師がそうおつしやつたことを思い出します。

やはりわたくしがお慕い申しあげておりました、教育者で兵庫の八鹿小学校の校長を最後に定年退職された東井義雄という先生のお話を思い出します。

夫と呼ぶんだと。沢木老師がそうおつしやつたことを思い出します。

はじめから仏さんなんだ。ただ、そのことを気づかず迷つているのを凡夫と呼ぶんだと。沢木老師がそうおつしやつたことを思い出します。

やはりわたくしがお慕い申しあげておりました、教育者で兵庫の八鹿小学校の校長を最後に定年退職された東井義雄という先生のお話を思い出します。

夫と呼ぶんだと。沢木老師がそうおつしやつたことを思い出します。

はじめから仏さんなんだ。ただ、そのことを気づかず迷つているのを凡夫と呼ぶんだと。沢木老師がそうおつしやつたことを思い出します。

やはりわたくしがお慕い申しあげておりました、教育者で兵庫の八鹿小学校の校長を最後に定年退職された東井義雄という先生のお話を思い出します。

夫と呼ぶんだと。沢木老師がそうおつしやつたことを思い出します。

やはりわたくしがお慕い申しあげておりました、教育者で兵庫の八鹿小学校の校長を最後に定年退職された東井義雄という先生のお話を思い出します。

地蔵菩薩さま II

「ほとけさまのサイン」

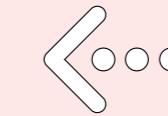
編集・発行 天台宗出版室

浦井正明師：「阿弥陀さまはなぜ九つの印相を示しておられるのか。お不動さまはどうして怖いお顔をして、剣などをお持ちなのか。本書はこうした疑問にお答えするために書いたものである。(中略) 仏さまは本来拝まれるために造られるのである。いいかえれば、私たちが仏さまに何を願い、仏さまはそれにどう応えてくださるのかということなのである。」

著者略歴

【浦井正明(うらいしょうみょう)】

1937年(昭和12年) - 2025年(令和7年)。天台宗僧侶。東叡山輪王寺門跡門主・寛永寺前貫首。慶應義塾大学文学部史学科卒業。東叡山現龍院前住職。寛永寺執事長、台東区教育委員会委員長、台東区文化財保護審議会委員等を歴任。『もうひとつ徳川物語 将軍家靈廟の謎』等著書多数。



大仏師 山高龍雲作

ほとけ さまのサイン Sign

お地蔵さまはインドではありませんが、中国や朝鮮では広く信仰され、やがて、奈良時代には日本へも伝えられました。

ただ、わが国でお地蔵さまが広く信仰されるようになったのは平安時代の中頃からのことです。特に、天台宗の恵心僧都(えしんそう)が説かれた地獄の思想が広まつてきました。平安後期には、その地獄に在つて、救いの手を差し延べて下さる菩薩さまとして、人々の信仰をあつめるようになりました。正に「地獄で仏」というわけです。

しかも、お地蔵さまは、単に救いの手を差し延べて下さるだけではなく、「代受苦(だいじゆく)」といつて、私たちの地球での苦しみを私たちに代わって受け下さるというのですから、ますます有難い仏さまとして信仰されるようになります。

そのことをよく示しているのは、他の仏さまと違つて、お地蔵さまにはとても親しみやすい特別なお名前がつけられていることです。

乗つて早く私たちを救いに来て下さいという願の表現です。このことは、来迎(らいごう)の阿弥陀さまの項でご説明した通りです。

お地蔵さまと閻魔さま

また勝軍(しょうぐん)地蔵や裸形(らぎょう)の地蔵、白雲上の蓮台に乗られた地蔵など、珍しいお姿のお地蔵さまもいらっしゃいます。

勝軍地蔵とは、中世以降、武士が戦勝や武運を祈願したお地蔵さまで、甲冑(かっちゅう)をつけておられます。また、裸形の地蔵は、自分の信仰する仏さまが、夏も冬も同じ衣を着ておられるのはお気の毒だという考え方から、子供の着物を着せかえるように、お地蔵さまの衣を季節にあわせてお替えするのです。こうした例は辨財天さまにもありますし、奈良の新薬師寺のように、衣自体まではずせるように木彫で造った例もあります。蓮台の下に白雲を置いたお地蔵さまは、この雲に

更に、お地蔵さまへの信仰は、中世になって閻魔さまをはじめとする十王信仰が伝えられると、一層深まっています。

というのは、死者を裁く十王を代表する閻魔大王は、実は地蔵菩薩の別のお姿だと考えられたからです。

お釈迦さまと弥勒さまの間を繋ぐお地蔵さまのお姿です。その後、半跏で右手に錫杖、左手に宝珠を持つお姿が一般的となり現在はこの姿を延命地蔵さまとお呼びしています。

地獄で仏

お地蔵さまはインドではありませんが、中国や朝鮮では広く信仰され、やがて、奈良時代には日本へも伝えられました。

ただ、わが国でお地蔵さまが広く信仰されるようになったのは平安時代の中頃からのことです。特に、天台宗の恵心僧都(えしんそう)が説かれた地獄の思想が広まつてきました。平安後期には、その地獄に在つて、救いの手を差し延べて下さる菩薩さまとして、人々の信仰をあつめるようになりました。正に「地獄で仏」というわけです。

しかも、お地蔵さまは、単に救いの手を差し延べて下さるだけではなく、「代受苦(だいじゆく)」といつて、私たちの地球での苦しみを私たちに代わって受け下さるというのですから、ますます有難い仏さまとして信仰されるようになります。

こうして、お地蔵さまは、観音さまと共に、時代を超えて、もつとも広く信仰される仏さまとなつたのです。

ニツクネーム

やがて、お地蔵さまについて、さまざまな靈験記や奇瑞(きずい)、伝説などが語られるようになります。例え、有名な『今昔物語』の中にも、お地蔵さまの靈験譚(れいげんたん)が載っていますし、こ

れも有名な矢田寺の『矢田地蔵縁起絵巻』などにも、お地蔵さまの御利益が説かれています。

例え、縛られ地蔵、とげ抜き地蔵、子育地蔵、身代(みがわり)地蔵など、いわゆるニツクネームをもつ、皆さまお馴染みのお地蔵さまが沢山いらっしゃるのです。特に最近では、水子地蔵、平和地蔵、交通安全地蔵など、

初七日から三十三回忌までの各忌日や回忌を担当する仏を十二仏といいますが、その内五七日は閻魔さまの担当で、本地仏(背景におられる仏さま)は地蔵菩薩さまといふわけです。

延命地蔵さま

また、お地蔵さまは子供に對して特別に目を掛けて下さる仏さまだと考えられました。よく石のお地蔵さまがよだれ掛けをしておられたり、お菓子やお玩具(もちや)が供えられているのは、今は「さわが子への親の心遣いなのです。

ところで、鎌倉時代になると、延命地蔵さまがお祀りされるようになります。最初は左手に錫杖を持ち、右手を頬に当て、右膝を立て、左足を踏み下すお姿でした。

お釈迦さまと弥勒さまの間を繋ぐお地蔵さまのお姿です。その後、半跏で右手に錫杖、左手に宝珠を持つお姿が一般的となり現在はこの姿を延命地蔵さまとお呼びしています。



地域に寄り添い、 支えるお寺へ いのちを

—寺院での
介護者カフェと
「人生の意味支援」としての
スピリチュアルケア—



浄土宗総合研究所研究員
宮城県塩竈市
浄土宗雲上寺住職

東海林良昌



私たちいま、世界でも例のない超高齢社会のただ中にいます。七十五歳以上の後期高齢者が急増し、在宅介護の担い手も高齢者であるケースが急速に増えています。「老老介護」「介護離職」「ヤングケアラー」など、かつては特殊と思われた言葉が、日常のものとなっています。介護者の約七割が精神的・肉体的に限界を感じているという調査もあり、社会が抱える不安は決して小さくありません。

一方で、寺院は古来より地域に寄り添い、人々の暮らしを支える「心の拠りどころ」でした。しかし現代では、寺院や僧侶に対し「社会活動のイメージがない」という声も少なくありません。人々が抱える孤独が深まる中で、寺院に求められる役割はむしろ大きくなっています。仏教が大切にしてきた慈悲と寄り添いの精神が、現代社会の苦しみにどう生かせるのか。そこで生まれた取り組みのひとつが「お寺での介護者カフェ」です。

お寺でひらく 「介護者カフェ」

介護者カフェとは、介護を担う方々が日々の悩みを語り合い、交流し、少し息をつくための場です。コーヒーとお菓子を片手に、介護者、介護経験者、介護職、地域包括支援センターの職員、関心のある地域住民などが集まり、立場を超えて思いを共有します。

お寺で行うカフェの大きな特徴は、そこに「僧侶と寺族がいる」という点です。語る側にとつては、



私はその語りを聞き続けるうちに、人が抱える悩みや苦しみの奥には、必ず「人生の意味」が横たわっていることに気づきました。そして、その意味を取り戻すとき、人は不思議と表情が和らぎます。心が軽くなる瞬間が訪れるのです。この気づきは、専門家から教わったものではなく、多くの介護者、ご家族、看取りの現場との出会いの中で私が訪れるのです。この気づきは、専門家だからこそ私は、スピリチュアルケアを「人生の意味支援」と表

寺院だからこそ 果たせる役割

人生の意味を語るには、安心して心を開ける場所が必要です。寺院には、祈り、供養、先祖への思い、あの世、いのちのつながりといった文化的・宗教的背景が自然と備わっています。そのため、参加者は無理なく「深い話」を語ることができます。



苦しみや負の感情の奥底に、必ず横たわる「人生の意味」。

その意味を取り戻す時、人は再び、和らいだ表情で生き始めます。

自分の弱さや不安、怒りや後悔を安心して話せる場所であり、聴く側にとつても、評価せず、否定せず、ただ受け止める姿勢を大切にする場です。自坊の介護者の集いでは、短い法話、自己紹介、日頃の安心の共有、そして「他言無用」の思いの共有、そして「他言無用」の安心の約束を柱にしています。

言い争う場ではなく「聴く場」であることが、何よりも重要です。

この取り組みは宮城県での開始を皮切りに、浄土宗の支援を受けながら全国へ広がりました。現在では12都道府県32カ寺で開催され、毎年立ち上げ講座が行われるなど、着実に広がりを見せていました。

スピリチュアルケアは、
私が現場で気づいた
「人生の意味支援」

介護者カフェを続けてきた中で、私は次第にケアとは単に知識や制度の説明をしたり、治すということではなく、その人の人生の意味に寄り添うことなのだと実感するようになりました。



おわりに —人生の物語に 寄り添う仏教



日本人は宗教団体への信頼が低いと言われることがあります。死生観や先祖の供養、いのちの問題については、今もなお寺院に対する期待が強いことも確かです。

寺院は、医療や行政には届きにくい「心の領域」を受け止める、大切な居場所となりうるのです。

寺院は、人々が自分自身の人生の意味に改めて向き合い、再び歩き出す力を取り戻すための大切な「場」となり得ます。超高齢社会を迎えたいま、仏教の教えと僧侶の寄り添いが、地域に新たな支えをもたらしていくことを願っています。

介護は、病気、老い、死別、そして死別後の悲嘆といった人生の大変な出来事と向き合うことであります。参加者の語りには、

- どうして自分がこんな役目を背負うのか

- これまでの人生は何だったのか
- 家族にどう向き合えばよいのか
- これから自分はどう生きるべきか

といった、深い問い合わせ自然と含まれています。

憲に基づき、地域のニーズに応じたものであれば「宗教活動とし認められる」と位置

お写経のすすめ

Shakyo no Susume



お写経は、仏教の經典の文字を一字一字、丁寧に書写することで、心身を清める修行として、大きな功德があります。經典は、お釈迦様のありがたい教えをまとめたものなので、お写経を繰り返すことでの意味を感じ取りながら仏教の教えを学ぶことができます。

お写経とは本来、徳を積むための行為であり、見返りを求めて行うものではありませんが、お写経を始めるきっかけとして、まずはどんな効果があるか知りましょう。



現代の医学的見地からみても、写経や読経が自己の治癒力を高める効果をもたらすということが分かっています。一つのことに意識を集中させることによって、神経系統、特に大脳の働きが整理されて、からだ全体がバランスよく保たれます。そして各器官が活発化してくるのです。

最近では大学などの研究で、写経は字を書くという指先を使う作業のため、脳を活性化することに効果があり、認知症の予防を目的に高齢者用のリハビリプログラムとして有効であることが証明されました。多感な青少年、また高齢者のためまで幅広く効用があることが、いま科学的にも注目されています。

お写経の効果

1. 指先を使うことで、脳を活性化させることができます
2. 姿勢がよくなり、心と体が落ち着いてきます
3. 自然の治癒力が向上します
4. 集中力と忍耐力がついてきます
5. 字が上手になります
6. イライラを解消し、疲労回復がはかれます
7. 心が清浄になり、安心の境地が得られます

般若心経

舍利札文

十句観音経

写経の
すすめ



写経用紙は上記の三種類を用意しております。今回全員に写経用紙（般若心経）をお送りいたしますので、3月末日までに納経をお願いいたします。

問合せ先
(公社)
全日本佛教婦人連盟

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
4-5-10-205

【TEL】03-5772-0677

【FAX】03-6434-0184

【URL】<http://www.jbwf.jp>

【MAIL】info@jbwf.jp

Letters from scholarship students

あおぞら奨学基金



皆様のあたたかいご支援が

こんなにも役立っています！

東日本大震災から早15年が過ぎました。当連盟では年間6名の高校生を支援しております。これまでに31名の生徒が卒業し、それぞれに成長していることだと思います。

令和6（2024）年度より、能登半島地震で被災し支援を必要とされている生徒も対象としています。

子どもたちが、未来に向けた一歩を踏み出せますよう一人の高校生1年12万円（1か月1万円）の学習支援です。皆様のご協力を願いいたします。

2025年度から支援をする高校生の前向きなお便りを紹介いたします。

1年生
男子

私はこの令和七年四月の春にこの学校に入学しました。入学できるか心配しましたが合格して入学できとてもうれしかったです。そして毎日楽しく学校生活を送っています。四月から今日まで三ヶ月以上が過ぎ、まだまだ分からぬことだけですが、先生方や友達の力を借りて日々学校生活にも慣れて

きています。六月には二週間の校内実習というものがありました。初めての作業だったので、最初は少し緊張したり戸惑つたりしました。でも、先生方の話をよく聞き、丁寧に仕事に取り組みました。休日は学校の用意や、家の手伝いなどであつて時間が過ぎて

私にとって、とても良い経験になりました。休日は学校の用意や、家の手伝いなどであつて時間が過ぎて

2025年10月20日
サポーター様
オレクサンドルコロヤンキ
拝啓
朝夕のすずしさを感じる季節となりましたが、サポーターの皆様はいかがお過ごしでしょうか。私ウクライナから避難、日本に来てから3年が経ちました。その間、皆様の温かいご支援のおかげで安心して学校生活を送り、勉強や部活動に一生懸命取り組むことができました。

そしてこのたび、私はウクライナへ帰国することになりました。日本で過ごした時間は、私にとってかけがえのない経験となりました。勉強を通して学んだことや、日本の皆さんとの思いやりの心を、これから的人生でも大切にしていると思います。

改めまして、これから支えてくださったあおぞら奨学基金の皆様に心から感謝申し上げます。日本での思い出と絆を大切に、これからもがんばります。

本当にありがとうございました。 敬具



ウクライナから避難された日本航空高校山梨校に通わっていた男子生徒が諸事情により帰国され、これまでの支援に対して御礼のお手紙が届きました。



全日本仏教会 <small>WORLD 世界仏徒連盟 日本センター</small>	
会長 伊藤 唯 眞 應 照 谷 日 理事長	曹洞宗宗務庁 <small>〒105-0011 東京都港区芝公園四一七一四 ☎○三一三四三七一九二七五 URL:http://www.jbf.ne.jp E-mail:info@jbf.ne.jp</small>
宗務総長 光岡 潤 慶	管長 南澤 道人 <small>宗務総長 服部秀世 教化部長 藏山大顕 参議 藤井浩宗 伝道部長 高橋英寛 参議 渡邊義弘 総務部長 圓通良樹 人事部長 喜美候部謙史 出版部長 伊藤弘隆 教學部長 深川典雄 財政部長 服部直哉 人事部長 喜美候部謙史 出版部長 伊藤弘隆 <small>〒105-0011 東京都港区芝四一七一四 ☎○三一三四三七一九二七五 URL:https://www.sotzen-net.or.jp</small> </small>
宗務総長 日蓮宗宗務院	淨土宗 <small>〒160-5100-62 京都市東山区林下町四〇〇一八 ☎○七五二一五二一七一〇〇代</small>
宗務総長 川中光教	宗務総長 三神栄法 <small>〒六〇五一〇九五一 京都市東山区東大路通り七条下ル 東瓦町九六四 ☎○七五一五四一五三六</small>
宗務総長 東京都仏教連合会	真言宗豊山派宗務所 <small>〒一三一〇〇一二 東京都文京区大塚五一四〇一八 ☎○三一三九四五一〇六三九代 FAX○三一三九四五一〇七〇二</small>
会長 小澤憲珠	会長 加藤玄静 <small>〒三三三〇一〇〇六三 もいたま市浦和区高砂四一三一八 ☎○四八一八六一一一二三八</small>
会長 三吉廣明	会長 村山廣弘 <small>【事務局】〒五五二一〇〇二一 大阪市港区築港一ー一三一 ○六一六五七一五七一〇</small>
宗務総長 天台宗	宗務総長 細野舜海 <small>〒六〇一一〇八九九 京都市上京区今出川通烏丸東入 相國寺門前町六三六一一 ☎○七五二二三三一六九七五代</small>
理事長 有馬頼静	愛知県仏教会 <small>【事務局】〒四九七一〇〇三六 愛知県海部郡蟹江町須成西七一六六一 FAX○五六七一九五一三〇一〇 ☎○五六七一九五一八七七</small>
事務局長 長沢香頼	



天台宗 三千院門跡	門主 小堀光實	淨土宗大本山 善光寺大本願	法主 川名觀惠	築地本願寺
〒六〇一一二四二 京都市左京区大原来迎院町五四〇	門主 東伏見慈晃	山村御殿 圓照寺	門跡 萩原道秀	宗務長 木尾村尚共貴
〒六〇五〇〇三五 京都市東山区粟田口三条坊町六九一 ☎〇七五一五六一三四五	門主 柴田立史	聖觀音宗 浅草寺	貫首 田中昭徳	副宗務長 東森尚人宏童
〒三二一一四九四 栃木県日光市山内二三〇〇 ☎〇二八八一五四一〇五三一	門主 法主小澤憲珠	貫首 田中昭徳	貫首 南澤道人	宗務長 東木尾村尚共貴
〒一〇五一〇〇一 東京都港区芝公園四一七一三五 ☎〇三一三四三二一四三一	淨土宗大本山 増上寺	曹洞宗大本山 總持寺	貫首 石附周行	築地本願寺
〒一一一〇〇三一 東京都台東区浅草二一三一 ☎〇三一三八四二一〇一八一代	法主 大谷光見	真言宗智山派 大本山 川崎大師平間寺	貫首 藤田隆乘	〒一〇四一八四三五 東京都中央区築地三丁目二五 ☎〇三一三五四一一一三二
〒二二一〇一八五二 神奈川県川崎市川崎区大師町四一四八 ☎〇四四一六六一三四二〇	法主 大本山 增上寺	〒二二一〇一〇〇六三 神奈川県横浜市鶴見区鶴見二一一一 ☎〇四五一五八一六〇二	貫首 藤田隆乘	〒一〇五一〇〇一 東京都台東区西浅草一一五五 ☎〇三一三八四三一九五一

〈順不同〉

謹賀新年

令和八年 丙午

長專院	住職中島真成	住職米田良中	天台宗三徳山三佛寺
淨土宗	住職中島真成	住職米田良中	天台宗三徳山三佛寺
長專院	住職中島真成	住職米田良中	天台宗三徳山三佛寺
長專院	住職中島真成	住職米田良中	天台宗三徳山三佛寺

貫首中野日演	貫主麻生諦善	貫主高井隆成	法華宗(陣門流)
貫首中野日演	貫主麻生諦善	貫主高井隆成	法華宗(陣門流)
貫首中野日演	貫主麻生諦善	貫主高井隆成	法華宗(陣門流)
貫首中野日演	貫主麻生諦善	貫主高井隆成	法華宗(陣門流)
貫首中野日演	貫主麻生諦善	貫主高井隆成	法華宗(陣門流)

〈順不同〉

謹 賀 新 年

令和八年 丙午

<p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>	<p>常務理事 桶屋良法</p>	<p>理事 村主みや子</p>	<p>会長 山田裕子</p>
<p>天台宗寺庭婦人連合会顧問 公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>	<p>常務理事 米田陽子</p>	<p>理事 湯浅正江</p>	<p>維持会員 日比野郁皓</p>
<p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>	<p>常務理事 米田陽子</p>	<p>理事 湯浅正江</p>	<p>維持会員 日比野郁皓</p>
<p>真言宗智山派 寶光院 公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>	<p>常務理事 大橋百合子</p>	<p>公認会計士 木村匡成</p>	<p>部長 押上剛人</p>
<p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>	<p>理事 大橋百合子</p>	<p>公認会計士 木村匡成</p>	<p>部長 押上剛人</p>
<p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>	<p>理事 松井百合子</p>	<p>会長 大塚哲子</p>	<p>会長 大塚哲子</p>
<p>千葉県市川市新井一九一 〒二七二一〇一四四 曹洞宗新井寺 FAX ○四七一三五七一八三九九</p>	<p>常務理事 桶屋良法</p>	<p>理事 村主みや子</p>	<p>会長 山田裕子</p>
<p>兵庫県宝塚市中山寺二一一 〒六六五一〇八六一 中山寺総持院 公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>	<p>常務理事 米田陽子</p>	<p>理事 湯浅正江</p>	<p>維持会員 日比野郁皓</p>
<p>静岡県藤枝市西方四〇七 〒四二六一〇二二一 兵庫県宝塚市中山寺二一一 〒六六五一〇八六一 中山寺総持院 公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>	<p>常務理事 桶屋良法</p>	<p>理事 村主みや子</p>	<p>会長 山田裕子</p>
<p>静岡県仏教婦人会</p>	<p>常務理事 桶屋良法</p>	<p>理事 村主みや子</p>	<p>会長 山田裕子</p>

謹 賀 新 年

令和八年 丙午

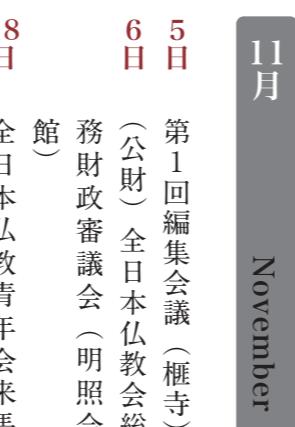
<p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>会長 東伏見具子</p> <p>〒六〇五一〇〇三五 京都市東山区粟田口三条坊町 六九一一 青蓮院門跡</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>副会長 加用稔子</p> <p>〒二二一〇〇六四 神奈川県横浜市神奈川区鳥越三八番地 ☎〇四五三一一一二〇(代)</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>相談役 岡野鄰子</p> <p>〒二二一〇〇六四 神奈川県横浜市神奈川区鳥越三八番地 ☎〇四五三一一一二〇(代)</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>副理事長 遠賀令子</p> <p>〒一四〇一〇〇一五 東京都品川区西大井五二三一二五 ☎〇三一三七七一四八一六</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>
<p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>副会長 吉田真理</p> <p>〒七三〇一〇〇四一 広島県廿日市市宮島町二二〇</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>副会長 末廣久美</p> <p>〒一六八一〇〇七四 東京都杉並区上高井戸一一二七一五</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>参与 末廣久美</p> <p>〒一一〇一〇〇〇一 東京都台東区谷中一五六一七</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>常務理事 梨本三千代</p> <p>〒二二七三一〇八五三 千葉県船橋市金杉六二五一一</p> <p>御瀧不動尊 金藏寺</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>常務理事 梨本三千代</p> <p>〒二二七三一〇八五三 千葉県船橋市金杉六二五一一</p> <p>御瀧不動尊 金藏寺</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>
<p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>顧問 林恵智子</p> <p>〒七三九一〇五九一 埼玉県所沢市東町一四一</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>理事長 本多端子</p> <p>〒一一〇一〇〇一五 東京都台東区東上野六一一八一七</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>常務理事 海老塚るり子</p> <p>〒七八一一八一二五 高知県高知市五台山三五七七</p> <p>真言宗智山派 竹林寺</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>
<p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>副会長 加用稔子</p> <p>〒二二一〇〇六四 神奈川県横浜市神奈川区鳥越三八番地 ☎〇四五三一一一二〇(代)</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>参与 鈴木トヨ子</p> <p>〒一四〇一〇〇一五 東京都品川区西大井五二三一二五 ☎〇三一三七七一四八一六</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>常務理事 花岡真理子</p> <p>〒二二七三一〇八五三 千葉県船橋市金杉六二五一一</p> <p>御瀧不動尊 金藏寺</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p> <p>常務理事 梨本三千代</p> <p>〒二二七三一〇八五三 千葉県船橋市金杉六二五一一</p> <p>御瀧不動尊 金藏寺</p> <p>公益社団法人 全日本佛教婦人連盟</p>

新年名刺交換協賛のお願いを申し上げましたところ、多くの方々よりお申込み頂きました。茲に掲載誌をお送り申し上げまして、御礼にかえさせて頂きたいと存じます。

新年名刺交換協賛のお願いを申し上げましたところ、多くの方々よりお申込み頂きました。

29日	28日	21日	10月
(公財)全日本仏教会第9回花まつりポスター及び絵はがき新デザイン選定審査会(明照会館)	(公財)仏教伝道協会「設立60周年感謝の会」(マンダリンオリエンタル東京)	「沙羅の樹」22号発行第72回全日本佛教婦人連盟大会(東京プリンスホテル)	大会打ち合わせ(東京プリンスホテル)
2022年10月~12月	私たちの日々のあゆみ	佛婦NEWS抄	佛婦NEWS抄
1日	7日	8日	1日
第3回運営委員会・第135回文化講座(谷中・天王寺)	真言宗智山派管長吉田宏哲猊下晋山祝賀会(ホテルグランヴィア京都)	「沙羅の樹」22号発行第72回全日本佛教婦人連盟大会(東京プリンスホテル)	大会打ち合わせ(東京プリンスホテル)

26日	12月	30日	11月	
め	修正会打ち合わせ	第4回運営委員会(東京會館)	第1回編集会議(樞寺)	
(Q.E.D.CLUB)	第37回成道会の集い(有楽町朝日ホール)	第60回戦争犠牲者慰靈並びに平和祈願式典(国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑)	(公財)全日本佛教青年会来馬司龍理事長就任祝賀会(池袋・ホテルメトロポリタン)	
「全佛婦」発送・仕事納め	第4回運営委員会(東京會館)	49回理事会(京都・聞	49回理事会(京都・聞	
		ング)	法会館・zoomミーティング)	



▼写経運動にご協力の方々	▼ご芳志をいただきました方々	▼新会員紹介	【正会員】	【賛助会員】
村上和之	慧林寺	慧林寺(浄土真宗東本願寺派)	阿眞知子(浄土真宗東本願寺派)	梨本三千代(磯山福正)
高橋節子	天王寺	吉村柳子	柳原敏子	吉村柳子
海老名初江	高崎悦子	塩入敬子(天台宗)	栗原裕子	塩入敬子(天台宗)
念法眞教				
湯浅正江				
高崎悦子				



information

新年修正会

日 に ち: 1月 21日 (水)

会 場: Q.E.D.CLUB

東京都目黒区中目黒 1-1-29

TEL: 03-3711-0006

第136回文化講座

日 に ち: 2月 10日 (火) 14:00 ~

会 場: 天王寺

東京都台東区谷中 7-14-8 上善堂にて写経会をしますので 皆さまご参加ください。

沙羅の樹22号(10月10日発行)にて新賛助会員勝樂寺浄土真宗東本願寺派とご紹介いたしましたが、真宗大谷派の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

訂正



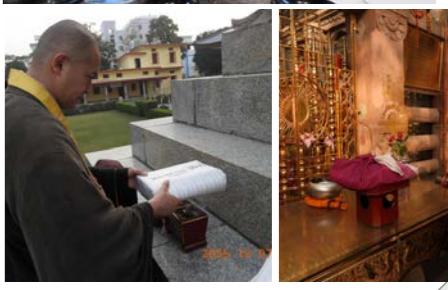
12月12日(金) 13時~有楽町朝日本ホールにて東京都佛教連合会小澤恵珠会長法要の下に当連盟六名の有志で献灯、献花、献香のお役を務めさせていただきました。

第一部の東京都佛教連合会小澤恵珠会長法要の下に当連盟六名の有志で献灯、献花、献香のお役を務めさせていただきました。

第二部は、道成寺小野俊成住職が「仏教文化の精華」と題し、道成寺縁起の絵解説をそして古典芸能解説者の葛西誠司氏の解説もあり、能や歌舞伎の世界で名高い道成寺の話の奥深い世界を垣間見る興味深い時間を過ごしました。

芳澤流家元芳澤壱ろはさんによる舞が観客を魅了いたしました。

今年は350名の参加者があり大変盛況な会となり、改めてお釈迦様がお悟りを開かれた日に感謝の思いを捧げました。



納経報告

2025年12月6日、印度山日本寺において厳修されました成道会に際し、(公社)全日本佛教婦人連盟様よりお預かりいたしましたお写経を奉戴いたしました。

当日は、日本寺竺主北河原公敬東大寺長老が導師をお勤めになり、日本寺より3名の僧侶が出仕のもと、厳粛に成道会が執り行われました。

その後、2025年11月末から赴任しました駐在僧杉原遙平(臨済宗建長寺派)が世界遺産大菩提寺に奉戴。お釈迦さまがお悟りになられた場所である聖菩提樹の下で読経し、更に日本寺での納経法要後、宝篋印塔にお納め致しました。

お写経を通して貴連盟から賜りましたご支援に一同心より御礼申し上げます。ご淨財は、菩提樹学園の園児たちの健康管理そして地域の公衆衛生向上活動を行う光明施療院の運営へ役立たせていただきます。(廣石)